



見本市での社長

「また注文だ！みんなでがんばろう。」

小さな工場でしたが、部品のすばらしさを見こんだ飛行機を作る会社から、どんどん部品の注文がきました。内田社長は、ナツパ服を着て、油まみれになり、従業員の先頭に立って働き続けました。

その頃、日本は外国と戦争をしていましたので、飛行機は非常に大切なものだったのです。

六年がたちました。工場は大きくなり、名古屋にも工場が建ちました。内田社長は、この大工場を行ったりきたりする忙しい日々をすごしました。

「社長、社長室でお休みください。」

「いや、ちよつと働かせてくれないか。部品の具合も見たいし……。」

そういうと内田社長は、ナツパ服に着がえ、目をかがやかせて工場の中に飛び